

修士課程

専攻	・学位論文が満たすべき基準	・審査委員の体制	・審査の方法	・審査の項目
生産・環境生物学	生産・環境生物学専攻の教育研究上の目的に則り、生産・環境生物学分野における専門的知識を基礎にして、研究目的の達成に向けて高い倫理と責任をもって遂行された研究であること、さらに研究成果全体を集約して論文として取り纏められていること、論文発表会で口頭発表されることが必要である。	指導教員を含む3名の審査委員	(1) 修士課程2年次の1月中旬に修士論文の要旨および本体を提出させる。 (2) 修士論文を提出した学生は、1月下旬または2月上旬に行われる修士論文発表会で、論文の内容を口頭発表し、質疑応答を行わなければならない。 (3) 修士論文は、指導教員を含む3名の審査委員が査読する。審査委員は、論文の査読結果および論文発表会のプレゼンテーション内容を評価し、評点を専攻主任へ提案する。 (4) 指導教員は、審査委員の評点を参考にし、専攻での成績判定会議の協議を経て、優・良・可・不可の4段階で審査結果を報告する。	(1) 修士論文 研究の背景、意義、目的、材料と方法、結果、考察、図表、結論、引用文献等 (2) 修士論文要旨 (3) 発表 内容、説明の仕方と話し方、スライド・ポインターの使用、質疑応答
応用生命化学	応用生命化学分野の研究を実施し、審査項目の全てにおいて本学の修士にふさわしい専門知識と研究能力を身につけたと認定されることとする。	指導教員を含む4名以上の審査委員	応用生命化学および関連分野における基礎的ならびに専門的学識についての授業を履修し10単位以上を修得する。また各研究分野で研究を実施し、その成果を修士論文とし審査委員会に提出し、その審査に合格すること。なお、修士論文審査では、論文に関しては、「研究の背景と位置づけの説明」「結果と考察の記述・内容」「図表の適切さ」「実験やデータの質と量」「総合討論の内容」、発表に関しては、「説明の論理的展開」「スライドの適切さ」「質疑応答の適切さ」の各項目について評価を行う。	「研究の背景と位置づけの説明」「結果と考察の記述・内容」「図表の適切さ」「実験やデータの質と量」「総合討論の内容」、発表に関しては、「説明の論理的展開」「スライドの適切さ」「質疑応答の適切さ」
応用生命工学	応用生命工学分野の研究を実施し、審査項目の全てにおいて本学の修士にふさわしい専門知識と研究能力を身につけたと認定されることとする。	指導教員を含む4名以上の審査委員	応用生命工学および関連分野における基礎的ならびに専門的学識についての授業を履修し10単位以上を修得する。また各研究分野で研究を実施し、その成果を修士論文とし審査委員会に提出し、その審査に合格すること。なお、修士論文審査では、論文に関しては、「研究の背景と位置づけの説明」「結果と考察の記述・内容」「図表の適切さ」「実験やデータの質と量」「総合討論の内容」、発表に関しては、「説明の論理的展開」「スライドの適切さ」「質疑応答の適切さ」の各項目について評価を行う。	「研究の背景と位置づけの説明」「結果と考察の記述・内容」「図表の適切さ」「実験やデータの質と量」「総合討論の内容」、発表に関しては、「説明の論理的展開」「スライドの適切さ」「質疑応答の適切さ」
森林科学	修士論文の内容は、森林科学に関わるいずれかの分野において深く探求し、学術上応用上の価値を有するものとする。	修士論文は、指導教員を含む2名の教員が査読する。	・修士課程2年次の1月、それ以前または以後の場合は7月または1月に修士論文の要旨および本体を提出させる。提出されない場合、修士論文の単位を与えない。 ・修士論文を提出した学生は、専攻が開催する修士論文の公開発表会で、論文の内容を口頭発表し、質疑応答をおこなわなければならない。 ・専攻に所属する教授、准教授および講師で構成される修士論文成績判定会議で、論文査読結果および修士論文発表会の発表と質疑応答に基づいて、修士論文の評価を決定する。評価は優・良・可・不可に分ける。	査読においては、文献や資料の引用が適切に行われているか、論理展開に矛盾や間違いがないか、そして修士論文としての体裁が整っているかを確認する。 公開発表会においては、決められた時間内に研究の目的と意義、方法、結果と考察、結論などがわかりやすく提示されていないと認められない。また質疑に適切に応答することが求められる。
水圏生物学	水圏生物学分野の研究を実施し、学術上応用上の価値を有するもの	主査および2名の副査を含む専攻の全ての教授と准教授	主査および2名の副査が論文の査読を行う。加えて、専攻の全教員が、要旨と口頭発表ならびに質疑応答をもとに総合的に評価する。 この審査結果を基に、専攻会議において議論し、学術的に優れた論文を合格と判定する。	論文の内容（研究の内容ならびに論文として表現） 口頭発表の内容 口頭発表における質疑への対応

修士課程

専攻	・学位論文が満たすべき基準	・審査委員の体制	・審査の方法	・審査の項目
農業・資源経済学	課題に対する問題意識の適切である、過去の研究の精査を十分している、その研究分野への貢献がある、分析目的と分析手法の合理的で独自性がある、得られた結果の解釈で妥当である。	専攻の教員全員。	指導教員が学位論文の作成過程を通じて各論を評価し、さらに全体の構成や論理性・整合性を点検する。課題に対する問題意識の程度、過去の研究の精査が十分行われているか、論文がその研究分野にどのような貢献をしているか、分析目的と分析手法の合理性・独自性、得られた結果の解釈の妥当性などを総合的に判断し評価する。また、修士論文の中間報告会を行い、そこでのコメントや指導を踏まえて修士論文が作成されているかを確認し、最終報告会を踏まえ専攻の教員全員による評価を行う。	課題に対する問題意識の程度、過去の研究の精査が十分行われているか、論文がその研究分野にどのような貢献をしているか、分析目的と分析手法の合理性・独自性、得られた結果の解釈の妥当性など
生物・環境工学	生物・環境工学分野の研究テーマを研究した修士論文であり、既往の研究論文のレビューに基づいて、研究の課題、研究の背景と目的が明確に記述されており、かつ、研究の構成と方法、研究結果、考察、結論が明確、かつ十分に記述、表現されていること。また、修士論文としての体裁を持つこと。	原則として、生物・環境工学特別研究Ⅰの担当教員全員	修士論文審査会において発表された修士論文研究について、修士論文発表会に出席した生物・環境工学特別研究Ⅰの担当教員全員が、提出された修士論文の内容を評価するとともに、指導教員の意見を参考にして、審査委員全員の合議によって評価を行う。	①過去の研究のレビューに基づく研究の背景、課題設定理由が十分に説明されていること ②問題と目的の設定根拠が的確に記述されていること ③研究の方法、実験結果等と考察、結論がよく理解され分かり易く記述されていること ④研究論文では、文章、図表、引用文献リストなどが適切に表現されていること ⑤発表会において、研究内容を分かりやすく発表し、質問に対する応答は適切であること ⑥研究過程での意欲と努力は十分であったこと
生物材料科学	生物材料科学専攻の各研究室の専門分野に該当する研究テーマについて研究を行ったもので、課題設定・研究方法・結果と考察などが学術上応用上の価値を有するものであること。	指導教員を主査とし、さらに事前に他研究室の教員1名を副査とする。	①提出された修士論文冊子体の内容・形式、および、②口頭での修士論文発表審査会の発表内容・発表の仕方・質疑に対する対応等から、専攻教員全員がそれぞれ総合的に100点満点で評価する。また、各大学院生について、事前に他研究室の教員1名を副査として決めておき、修士論文冊子体の査読を行い、修士論文発表会では先立って質問を行う。	①提出された修士論文冊子体の内容・形式、および、②口頭での修士論文発表審査会の発表内容・発表の仕方・質疑に対する対応等
生物材料科学（木造建築）	木造建築に関連する研究テーマについて研究を行ったもので、課題設定・研究方法・結果と考察などが学術上応用上の価値を有するものであること。	指導教員が主査として審査にあたる。	①提出された修士論文冊子体の内容・形式、および、②口頭での修士論文発表審査会の発表内容・発表の仕方・質疑に対する対応等から、専攻教員全員がそれぞれ修士論文（特定の課題に対する成果）に対して総合的に100点満点で評価する。なお、木造建築コース社会人大大学院生の場合副査はなしとし、修士論文発表会において専攻各教員からその場で質問を受け応答を行う。	①提出された修士論文冊子体の内容・形式、および、②口頭での修士論文発表審査会の発表内容・発表の仕方・質疑に対する対応等

修士課程

専攻	・学位論文が満たすべき基準	・審査委員の体制	・審査の方法	・審査の項目
農学国際（IPADSを含む）	修士論文の内容は、農学国際専攻に関わるいずれかの分野において探求し、学術上応用の価値を有するもの。	評価は、主査1名、副査2名、主査以外の教員で行う。主査は原則として指導教員が担当し、副査は主査が候補者を選任し、専攻会議にて承認を得る。	主査は評価項目1、2、3および4b、副査は評価項目1、2および4b、審査会に出席する主査副査以外の教員は評価項目4aおよび4bの評価要素について評価する。	<p>評価の対象とする項目は、研究内容、論文内容、加点要素、および口頭発表とする。</p> <p>評価項目1. 研究内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 修士論文として評価に値する仕事量があるか 2) 関連分野の既往知見との関連付けは適切か 3) 研究内容に独自性があるか <p>評価項目2. 論文内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的背景と必要性が明快かつ論理的に説明されているか 2) 背景と必要性から、妥当な研究目的が設定されているか 3) 研究方法が明快かつ論理的に記述されているか 4) 結果が明快かつ論理的に記述されているか 5) 結果に対する考察は適切か 6) 考察から妥当な結論が導かれているか 7) 結果の意義が明快かつ論理的に記述されているか <p>評価項目3. 加点要素</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 論文発表会までに行われた、筆頭著者として関連学会合での口頭・ポスター発表件数 2) 論文発表会まで受理された、関連学術誌での筆頭著者論文件数 3) 口頭・ポスター発表、論文以外の加点要素 <p>評価項目4a. 口頭発表のなかみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 修士課程修了とするに十分な仕事量があるか 2) 研究内容に独自性があるか <p>評価項目4b. 口頭発表のしかた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 背景と目的が分かりやすく説明されていたか 2) 研究方法が分かりやすく説明されていたか 3) 結果が分かりやすく説明されていたか 4) 考察が分かりやすく説明されていたか 5) 結論が分かりやすく説明されていたか 6) 質問に対して、的確な回答がなされていたか
生圏システム学	生圏システム学の分野において深く探求した内容であり、学術的・応用的価値を有するもの	専攻会議構成員	専攻会議構成員からなる成績判定会議において、修士論文の内容および修士論文発表会における発表内容について、指導教員の意見を参考にしつつ総合的に評価したうえで、合議により判定する。	修士論文における研究内容の妥当性、独創性、応用的価値 修士論文発表会における発表内容および質疑応答の適切さ
応用動物科学	哺乳類を中心とした応用動物科学の各分野における研究を実施し、修士論文に相応しい実験データの質と量を有し、新たな知見に基づく学術上応用の価値を有すること。	指導教員を含む4名の審査委員	論文については4名の審査委員が修士論文を精読し、審査項目ごとに5段階評価をする。さらに指導教員を除く3名の審査委員は修正点をコメントし改訂版の提出を求める。改訂版に対し3名の審査委員は修正点を精査し「受理」または再改訂を求める。全員が「受理」した論文を最終版とする。発表については審査項目ごとに5段階評価をする。	論文については「目的・意義」「材料と方法」「実験結果」「考察・結論」「図表」「参考文献」の各項目に加え「内容の新規性」「チャレンジ性」 発表については発表内容に加えスライド、ポインターの使用、話し方、質疑応答の的確さ

博士課程

専攻	・学位論文が満たすべき基準	・審査委員の体制	・審査の方法	・審査の項目
生産・環境生物学	生産・環境生物学専攻の教育研究上の目的に則り、生産・環境生物学分野における高い専門的知識を基礎にして、研究目的の達成に向けて高い倫理と責任をもって遂行された独創的な研究であること、さらに研究成果全体を集約して論文として取り纏められていることが必要である。 また、博士論文の内容が、国際学術誌での原著論文（当該大学院生が第1著者）として、1報以上公表または受理されていることが必要である。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	提出された博士論文は、5名の審査委員により査読を行ったのち、論文審査会で審査する。論文審査会で、論文提出者は論文内容を口頭で説明し、審査委員と質疑応答を行う。審査委員会は論文の査読結果、論文審査会での発表内容、および質疑応答の内容を踏まえて可否を判定する。	(1) 博士論文 研究の背景、意義、目的、材料と方法、結果、考察、図表、結論、引用文献等 研究内容・手法の論理性・独創性・新規性、学術的意義 (2) 発表 内容、説明の仕方と話し方、スライド・ポインターの使用、質疑応答
応用生命化学	応用生命化学分野の研究を実施し、本学の博士にふさわしい専門的学識と研究能力を身につけたことを問う博士論文審査に合格することを必須の基準とする。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	5名以上の審査委員により査読を行ったのち、論文審査会で審査する。論文審査会では、論文提出者は論文内容を口頭で説明し、審査委員と質疑応答を行う。論文の査読結果、論文審査会での発表を踏まえて可否を判断する。	博士論文審査では、論文に関しては、序論における「研究の背景の説明」「論文研究の位置づけの説明」と、本論における「結果の記述・内容」「考察の記述・内容」「図表の適切さ」「実験やデータの質と量」「結論における総合討論の内容」、発表に関しては、「説明の論理的展開」「スライドの適切さ」「質疑応答の適切さ」、そして、全体を通して「研究の独創性・研究者の個性（ユニークさ、フィロソフィー）」「研究遂行能力（達成度、完成度、自立性、将来性）」「研究の学術的価値」の各項目について評価を行う。
応用生命工学	応用生命工学分野の研究を実施し、本学の博士にふさわしい専門的学識と研究能力を身につけたことを問う博士論文審査に合格することを必須の基準とする。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	5名以上の審査委員により査読を行ったのち、論文審査会で審査する。論文審査会では、論文提出者は論文内容を口頭で説明し、審査委員と質疑応答を行う。論文の査読結果、論文審査会での発表を踏まえて可否を判断する。	博士論文審査では、論文に関しては、序論における「研究の背景の説明」「論文研究の位置づけの説明」と、本論における「結果の記述・内容」「考察の記述・内容」「図表の適切さ」「実験やデータの質と量」「結論における総合討論の内容」、発表に関しては、「説明の論理的展開」「スライドの適切さ」「質疑応答の適切さ」、そして、全体を通して「研究の独創性・研究者の個性（ユニークさ、フィロソフィー）」「研究遂行能力（達成度、完成度、自立性、将来性）」「研究の学術的価値」の各項目について評価を行う。
森林科学	(1) 博士論文の内容は、森林科学に関わるいずれかの分野において深く探求し、学術上応用上高い価値を有するものとする。 (2) 学位論文の内容の一部が、審査付き学術雑誌の論文ないしそれに相当すると森林科学専攻が認める著作物により、筆頭著者として公表あるいは受理済みであることを要する。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	(4) 論文審査委員会は、学位申請者が論文内容を口頭で説明する公開発表会を主催する。発表会では、学位申請者と参加者の質疑応答をおこなう。 (5) 論文審査委員会は、非公開の論文審査会を開催し、論文の査読結果と公開発表会の内容を参考にして、学位申請者に対して口頭試問をおこなう。論文内容と口頭試問の結果に基づいて審査委員全員が合格と認めた場合のみ合格と判定する。	論文審査委員会では、文献や資料の引用が適切に行われているか、論理展開に矛盾や間違いがないか、そして博士論文としての体裁が整っているかを確認する。 論文審査会においては、研究の目的と意義、方法、結果と考察、結論を適切に提示し、また口頭試問に適切に回答することが求められる。
水圏生物学	・学位論文の内容が、水圏生物科学の分野において学術上応用上高い価値を有した研究であること。 ・学位論文審査会開催時に、学位論文の内容に関連した筆頭著者の原著論文が1編以上公表済みであるか、または印刷中であること。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	博士論文の審査は、5名以上の審査員が、提出された学位論文の内容、ならびに口頭発表と質疑応答を総合的に評価して行う。	項目として明示化されたものはない。

博士課程

専攻	・学位論文が満たすべき基準	・審査委員の体制	・審査の方法	・審査の項目
農業・資源経済学	課題に対する問題意識の適切である、過去の研究の精査を十分している、その研究分野への貢献がある、分析目的と分析手法の合理的で独自性がある、得られた結果の解釈が妥当である。かつ、総合演習において、専攻の教員全員が博士論文に値すると評価されること。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	指導教員が学位論文の作成過程を通じて各論を評価し、さらに全体の構成や論理性・整合性を点検する。課題に対する問題意識の程度、過去の研究の精査が十分行われているか、論文がその研究分野にどのような貢献をしているか、分析目的と分析手法の合理性・独自性、得られた結果の解釈の妥当性などを総合的に判断し評価する。また、博士論文の主要な研究結果が得られた時点で総合演習にて研究報告を行い、研究内容が博士論文に値するか否かを専攻の教員全員で評価する。そこでのコメントや指導を踏まえて博士論文が作成されているか否かの確認を含め、最終審査を行う。	課題に対する問題意識の程度、過去の研究の精査が十分行われているか、論文がその研究分野にどのような貢献をしているか、分析目的と分析手法の合理性・独自性、得られた結果の解釈の妥当性など
生物・環境工学	別欄に示した審査項目すべてについて、学位論文審査委員会より高い評価を得て、博士論文としての水準に達していることが認められた論文であること。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	博士論文発表公開講演会を2回開催する。学位論文審査委員会は提出された学位論文を審査するとともに、2回目の公開講演会に続いて開催される学位論文審査会において、口頭試験および学力の確認を行い、総合的に評価して学位授与の可否を決定する。	①生物・環境工学分野において重要な問題や学術的に未解決の問題を独創的に解決しており、学術的あるいは社会的な意義を有していること。 ②研究上の課題設定が的確であり、明確な研究目的が設定されており、その設定に至った研究の背景、課題設定の経緯について、適切に既往の研究を引用しながら、論理的に説明していること。 ③研究方法が適切であること。 ④研究結果が明確に示され、適切な方法で解析されていること。 ⑤研究結果を論理的に考察していること。 ⑥論文の構成、適切な文献の引用と表記など、学位論文としての体裁が整っていること。 ⑦原則、学位申請者は、学位論文審査会(本審査会)までに申請者を筆頭著者とする査読付き学術論文(少なくとも一編)が学術誌へ既掲載、あるいは掲載が決定されていること。 ⑧最終(口述)試験成績
生物材料科学	学位論文の内容に即した論文1報が審査付学術論文誌に既掲載か、または掲載が決定されており、さらに論文1報が審査付学術論文誌に投稿されていること。	教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）	①提出された博士論文冊子体の内容・形式、および、②口頭での博士論文審査会の発表内容・発表の仕方・質疑に対する対応等から、主査および副査(通常4名)が総合的に評価する。	①提出された修士論文冊子体の内容・形式、および、②口頭での修士論文発表審査会の発表内容・発表の仕方・質疑に対する対応等

博士課程

専攻	・学位論文が満たすべき基準	・審査委員の体制	・審査の方法	・審査の項目
農学国際（IPADSを含む）	<p>(1)博士論文の内容は、農学国際専攻に関わるいずれかの分野において深く探求し、学術上応用上高い価値を有するもの。</p> <p>(2)課程博士に必要な公表論文数については、次の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既報1報以上（英文、受理された段階のものを含む）および準備中（英文であるか否かを問わず、1年以内に受理される見込みのあるもの）、あわせて3報以上。 ・既報1報については審査会の時点で受理されているもの。予備審査の時点では受理見込みでよい（受理が確定されてなくてもよい）。ただし、審査会の時点で受理されていない場合は審査が中止される。 ・上記3報は原則としてFirst Authorであること。 ・特許申請中のものは既報の受理の時期について多少の猶予を考慮する。 	<p>教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）</p>	<p>博士論文の評価は、「予備審査会」（論文の構想を知り、論文提出が可能か否かの判断をすることを目的とし、本審査会の約半年前に専攻教員が審査員となり実施する）、および「本審査会」（論文提出者による論文内容発表の後、発表への質疑、口頭試問および判定会議を審査委員が実施する）にておこなう。</p>	<p>以下の点について総合的に評価を行う。</p> <p>評価項目1. 研究内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 博士論文として評価に値する仕事量があるか 2) 関連分野の既往知見との関連付けは適切か 3) 研究内容に独自性があるか <p>評価項目2. 論文内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的背景と必要性が明快かつ論理的に説明されているか 2) 背景と必要性から、妥当な研究目的が設定されているか 3) 研究方法が明快かつ論理的に記述されているか 4) 結果が明快かつ論理的に記述されているか 5) 結果に対する考察は適切か 6) 考察から妥当な結論が導かれているか 7) 結果の意義が明快かつ論理的に記述されているか
生圏システム学	<p>(1) 生圏システム学の分野において深く探求した内容であり、高度な学術的・応用的価値を有するもの</p> <p>(2) 請求者が第一著者であり、学位論文の内容に関連した査読付き論文が1報以上学術雑誌に掲載または掲載決定済みであることを原則とする。</p>	<p>教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）</p>	<p>提出された博士論文について、審査委員による査読を行ったうえで、審査会を行う。審査会においては、論文内容に関する口頭発表を公開で行った後に、審査委員による質疑を行う。審査委員は、論文の査読結果、審査会での発表内容および質疑応答の内容に基づき、合議により可否を判定する。</p>	<p>博士論文における研究内容の妥当性、独創性、応用的価値 審査会における発表内容および質疑応答の適切さ</p>
応用動物科学	<p>哺乳類を中心とした応用動物科学の各分野における研究を実施し、博士論文に相応しい十分な実験データの質と量を有し、新たな知見に基づく世界的水準の高い学術上応用上の価値を有すること。</p>	<p>教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）</p>	<p>予備審査において研究内容の発表を行い、4名以上の審査員により研究内容の充足度を中心に審査する。最終審査においては上記の5名以上の審査委員が、博士論文の精読、および研究内容発表への質疑を行い、本研究の意義と位置づけ、学術的な価値を中心に審査する。これらを通し修了予定者の総合的な研究能力の評価を行う。</p>	<p>論文については「研究の背景と本研究の位置づけ」「実験方法の適切さ」「実験データの質と量、および結果の記述と図表の適切さ」「考察内容の妥当性」および「研究の学術的価値」など。</p> <p>発表については「説明の論理的展開」「スライドの適切さ」「質疑応答の的確さ」を通し「研究者としての総合的能力」。</p>
獣医学	<p>獣医学に関わる分野について深く探求し、学術上応用上高い価値を有するものであること。</p>	<p>教育会議の承認を得た審査委員5名以上（うち1名を主査とする。）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学位申請者より提出された論文の査読を5名以上の審査委員により行う。 2. 審査委員会は非公開の論文審査会を開催し、学位申請者は論文内容を口頭で説明する。 <p>審査委員は、論文の査読結果と審査会における口頭発表の内容を参考にし、学位申請者に対して口頭試問をおこなう。</p>	<p>論文：</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究の背景や目的が明確であるか 材料と方法が再現性を担保しているか 結果が分かりやすく明確に述べられているか 研究の目的に沿った科学的な深い考察がなされているか <p>口頭発表：</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文内容を適切に反映しているか 発表が分かりやすくまとめられているか 時間内に発表が終了したか 質疑応答に明確に答えられたか